

地元企業の今昔

東中野地域にも、本社をこの地に置き業績を上げるとともに、町の発展にも大きく寄与している会社がいくつかあります。そのうちの2社について、過去と現在を調べてみました。

1. 日本閣

大正3年、創業者「鈴木磯五郎」が現在地で釣り堀を始めたのが最初。同9年割烹料理店に、そして昭和10年結婚式場「日本閣」として新たに開業しました。当時の資料を見ると、挙式料5円から30円、料理一人前3円から15円、貸衣装20円から70円とあります。昭和20年5月の空襲で全焼しましたが、同26年再開、数度の改装改築を経て、今日に至っています。

現在、年間千八百組の結婚式（一日の最多挙式数55組）、大小二千五百組の宴会が行なわれているとのことでした。



昭和11年ころの日本閣



2. 関東バス

昭和7年元旦、資本金8万円で創業。新宿〜小滝橋（1.92キロ）を一日3往復していました。現在の規模と比較すると本当に驚きです。



昭和7年開業当時の関東バス

項目	創業時	現在
従業員（人）	18	1,098
車台数（台）	4	367
運転系統	1	134
乗客（人/日）	資料なし	167,000

東中野駅（その1）

東中野地区を考える時、その基点はやはり「東中野駅」でしょう。この駅を中心に旧町名を廃し、東中野一丁目〜五丁目という新しい町名が昭和41年10月に誕生しました。そこでこの地区の中心、東中野駅の今昔を調査しました。

まず中央線の今昔から始めます。明治8年11月立川〜八王子間が「甲武鉄道」によって開通されました。駅は、新宿、中野、境（現在の武蔵境）、国分寺、立川、八王子の6駅でした。車両は蒸気機関車（写真①）で、新宿〜八王子間を1日5往復、3時間間隔、時速30km、所要時間1時間13分で運行していたという当時の記録があります。さらに明治28年4月新宿〜飯田橋間が開通しました。しかし単線で汽車では輸送効率も悪いので、まず複線化工事が明治29年認可と同時に開始され、また明治37年8月には中野〜飯田橋間の電車運転が開始されました。

電車（写真②）の登場により、駅の新設を求める声が地元から起りました。明治39年6月、当時の呼称で豊多摩郡淀橋町柏木信号所（現、北新宿3丁目）を同郡中野町、現在の架道橋付近に移設すると同時に駅を造り、「柏木駅」としたのが始まりで、開設当時は駅長1、改札掛^{かか}2、転轍手^{てんてつ}（ポイントを操作する人）1、駅夫2の計6人でした。

同じ年の3月、鉄道国有法が公布され、10月には、甲武鉄道の名は無くなりました。

交通博物館提供



写真①

写真②



交通博物館提供